



2003～2004年度

THE ROTARY CLUB OF KOSHIGAYA—NORTH

例会日：毎週水曜日 12:30～13:30

例会場：越谷市千間台東1-1-6

クオレ千間台 2F

TEL 048 (975) 9898

FAX 048 (977) 3741

創立：1976年5月11日

会長：小林 操

副会長：今野 忠雄

幹事：太田 靖彦

会報委員長：石川 輝次



Lend a Hand

第 1358 回例会記録 No. 19

平成 15 年 12 月 3 日

司会：若海兵馬

編集：黒田幸英

会次第

1. 点鐘
2. ロータリーソング 「奉仕の理想」
3. 会長挨拶
4. 幹事報告
5. 誕生祝・結婚祝
6. お客様挨拶
7. スタッフによる卓話
8. 終鐘

次回例会予告
クラブ年次総会
次年度理事役員選出
会員卓話

会長挨拶



こんにちは、地区大会、市民祭りが終わり、いよいよ師走 12 月ですね。今年も色々なことがあり、あっという間に、1 年が経過したようです。ロータリー活動は、今年最後のイベント、クリスマス例会が残っています。本日参加の募集を募っているようですが、どうぞ皆さんご家族での参加心よりお待ち申し上げます。

また、本日、国際奉仕委員会の方より、大阪国際大会参加の案内が皆様のポストにあったと思いますが、越谷北ロータリークラブの会員の方で、過去に国際大会に出席の経験のある方は、

恐らく半数に満たないと思います。国際大会は、地区大会同様、奉仕と親睦を信奉する者の権利であると思います。強引な持論ですが、例えば10年ロータリークラブ活動をして、一度も国際大会に出席したことがなければ、果たしてロータリアンと言えるか疑問です。私も数回出席していますが、セレモニー、議事等ほとんど分かりません。なぜなら大会の進行はすべて英語だからです。それでは何に意義があるかと言えば、それはすべての国際大会がそうであるように、参加することです。世界のロータリアンが集まり、共通の理想を話し合い、自分の参加している組織に感動を感じるからです。もし皆さんがロータリークラブの名の下に、一人黙々と奉仕されているならば、ぜひ国際大会に参加してみてください。そこには日本中の、そして世界中の仲間がいます。

越谷北ロータリークラブの会員の皆さんの積極的な参加をお待ちしております。

会長は頭の中には、ロータリーのことしかないと、あちこちから聞かれます。そんなことはありません。先月市民祭りの一週間前、長女に子供が生まれ、いよいよ私も皆さんの仲間になり、ジジになりました。孫が可愛いのは言わずもがな・・・ですが、命名で大騒ぎになりました。命名権は娘夫婦にありますが、私の母も含めて、あれこれ勝手な名前を考えていたようです。私は、やはり命名権の一番は婿さんということで静観していましたが、実は、インターネットで、毎年の人気の名前を検索して、どうなるか、楽しんでいました。

過去5年間の人気の名前No.1は、98年男：大輝、女：萌、99年男：大輝、女：未来、00年男：翔、女：優花、

01年男：大輝、女：さくら、02年男：駿、女：美咲、葵、だそうです。(明治生命資料)。

ちなみに、孫は、ごく普通のちよつと古い感じの「勘輔」になりました。ありがとうございました。

結婚祝・誕生祝



誕生祝：

稲垣勝三会員・鈴木英男会員・宮崎敏博会員・小山哲央会員

結婚祝：

中村義雄会員・中島正義会員

結婚祝を有難う御座います。今、急に指名されて結婚して何年かを数えてみましたが、39年になります。今まで良くもったなと思います。いや、良くもたせて貰ったなと感謝しています。これからもズット続く様、今までとは違った生き方をしたいと思います。本日は本当に有難う御座いました。

お客様挨拶



米山奨学生 邢子強

こんにちは、お元気ですか。気温も寒くなり皆さん風邪を引かないよう

越谷北ロータリークラブ 小林操会長提言「原点に帰り、ロータリアンらしくあれ！」

ホームページアドレス <http://www.koshigaya-n.rc.jp>

にお体に気をつけてください。私は皆さんのおかげで元気です。学校も順調だし毎日楽しく暮らしています。気がかりは只1つ、論文の提出日が迫っている為毎日修士論文の執筆に追われています。

今日はここで修士論文について簡単にご報告いたします。テーマは「早期児童英語教育」中国と日本の早期児童英語教育の現状と特徴を比べながら、お互いの長所と短所を分析します。そして、小学校に最も良い教授法で英語を導入するのが本文の目的です。
 第1章：論文を書く動機と目的
 第2章：早期児童英語教育の必要性
 第3章：どのように小学校に英語を導入するか
 第4章：どのような内容を教えるか
 第5章：英語学習の指導法について
 今日までに第4章まで完成しています。今月一杯で全文章を完成する予定です。そして綺麗な文章にしたいと思います。皆さんの応援をお願い致します。そしてご意見とご協力をお願いいただけると大変嬉しいです。

幹事報告

地区国際交流委員会よりシカゴ国際本部、フロリダ 6970 地区親善訪問の案内が来ています。
 当第5グループの各クラブの状況報告書が届いています。

3分間ロータリー情報



木村二夫副委員長

「職業の意義」について

ロータリーの職業奉仕理念とは、専門職務の人が考えるべき本来の職業観を、実業人にも当てはめようということなのです。

私たちの職業は社会に奉仕するために存在しているのであって、お金を儲けるためではない。私たちが自分の職業を通じて社会に奉仕している見返りとして、報酬が得られるのだという考え方です。

「ロータリーの源流」

[http://www1.odn.ne.jp/~caz52570/index.](http://www1.odn.ne.jp/~caz52570/index.htm)

[htm](http://www1.odn.ne.jp/~caz52570/index.htm) 依り転載

委員会報告



社会奉仕委員会：長谷川真也

先日の市民祭りが無事終了致しました。ご協力有難う御座いました。

米山奨学委員会：桜井智之

米山奨学会より寄付の礼状が届いております。

北RCスタッフ卓話

事務局の杉山さん、吉江さん、エレクトーンの井谷さんに北ロータリークラブに対するかかわり、思いをお聞かせいただきました。

知り合いも沢山増えて、世界が広がりました。



越谷に頼もしい知り合いがいつべんに大勢出来ました。



親しくして頂いた方で何人かが逝ってしまわれたこと・・・等など



出席報告

会員数	50名
出席免除者	4名
出席者	39名
欠席者	11名
出席率	84.78%

財団留学生

堂内直子さんからののお便り

2003年8月30日

ドイツではまもなく短い夏が終わろうとしています。出発から1週間が過ぎ、ようやく時差ぼけもおさまりました。いよいよ語学学校が1日から始まります、ようやく学生に戻った感じで、うれしいような、くすぐったい気持ちで期待と不安との間に立っています。同じく2770地区から派遣された奨学生、大野はな恵さんも同じ語学学校に通い、お互いにドイツ語試験を目指して励ましあいながら勉強に専念したいと思います。

到着してから今日までは、ドイツ西部を縦断しておりました。フランクフルトに着いてから、ユースホステルに2泊し、その後南ドイツの町シュベール (Schwaebisch Hall) で2泊、28-30日は、10月から一年間居ることになるミュンスター (Muenster) へ。駅まで顧問ロータリアン マーティン・コーダ氏が迎えに来てくれており、2日間泊めさせていただきました。その晩に早速私のホスト地区 (1870) の4つのクラブの1つ、St.モーリッツ RC (会員約100名) の「夜間特別例会」—とある美術館で絵画を解説付で鑑賞し、その後イタリア料理を食べると言う会—がありました。すばらしい絵画を見、また美味しい料理を囲んで親切なロータリアンと語らうひとときは学生の私にとってなかなか経験の出来な

い、とても贅沢な時間でした。次の日は通常の例会が昼間に開かれ、駅に程近いとあるホテルで、昼食後、短い自己紹介をさせていただき、マーティン・コーダ氏が「クララ・イマヴァー」という、化学者フリッツ・ハーバーの妻であり、女性が高等教育を受けない時代に初めて大学で学び、学問を究めた19世紀の女性についてのレポートの発表がありました。例会の雰囲気は日本のそれと大変似ていて、また、スポンサークラブ越谷北クラブ同様、男性会員のみクラブでした。皆さんとても温かく迎えてくださいました。今回、バナーを渡し忘れてしまったので、次回必ず持って行きたいと思いません。

9月7日（日）

先週一週間は大変夏らしい陽気に戻り、半袖で過ごすことができました。語学学校は宿題が多いですが、良い先生、クラスメートに恵まれ、楽しい毎日です。バーバラ先生の下、クラスは総勢5名、イランから来た作家ファラジュ、ロータリー奨学生、台湾の志賓、同じく奨学生的美環（埼玉2570地区）、韓国の音大出身ウンヨン、私です。レベルの高いクラスなので、この先ちゃんと付いていけるのか自信がありません。しかし、10月2日と9日にミュンスター大学のDSH(外国人志願者のための入学前語学試験)があるのでそれに向けて必死に準備に取り組まなければなりません。ヴィザの申請や、銀行の口座開設といった事務的な事にも時間と労力いるので、外国

で暮らすと言うのは大変なことだと改めて感じています。様々なことをスムーズにこなすにはやはり語学力が必要だということも身にしみております。大学の試験の前に22日から準備コースに参加することにしたため、ここフランクフルトでの生活も全4週間の予定が3週間となり、あと残すところ2週間です。ゆっくりと出来るのは週末だけですが、初めての1人暮らし(今住んでいるのは学校の寮です)、することはいくらかもあります、1人で食べるご飯にはまだ慣れません。今日はクラスメートのウンヨンの家で、韓国料理を食べさせてくれるとか。とても楽しみです。

9月20日

フランクフルトのゲーティンステイテュートにて、開校20周年記念の“Tag der offenen Tür”という行事がありました。一般の人々に学校を開放し、様々な企画を催すもので、例えば生徒が国ごとに集まり、出身国について紹介するコーナー、先生方の公開授業、カフェ、などがあり、私たち日本人は日本の紹介、折り紙体験コーナー、ゲストの名前を日本語で書くサービスなどを行いました。また2人のロータリー奨学生、浦和東クラブからの大野さん（ピアノ）、2570地区の川越出身の金子さん（ピアノ）と、京都から自費で語学研修に来ていた東海君（バリトン）と4人で小さなコンサートを開くことが出来ました。曲目はピアノ連弾で、クレメンティのDUETTINO、ブラームスのハンガリ

一舞曲、歌とピアノで、シューマンの献呈、**O SOLE MIO** などでした。大変盛況に終えることが出来、このような機会に恵まれたことにとても感謝しています。

10月8日

私は27日までの語学研修を一週間繰り上げ21日にミュンスターへと向かいました。と言うのも22日より大学の語学準備コースが始まるためです。語学学校で知合った仲間と別れ、列車にてミュンスターへ向かう際、心の中で、とうとうこれから1人での生活が始まるのだ、と覚悟していました。しかし、実際にミュンスターに来てみると、たくさんのロータリアンがお世話してくれ、心の支えになってくれています。駅までホスト地区の顧問ロータリアンのマーティン・コーダ氏が出迎えてくださり、寮に入るまでの間ご自宅に居候することが出来ました。また、26日(金)は例会にも参加し、短い挨拶をいたしました。26日からはマーティン・コーダ氏が旅行のため、同クラブのクリスト氏のお宅で30日までお世話になりました。30日に無事寮への引越しを済ませ、一週間の準備コースも終え、10月2日に語学試験(DSH)を受験しました。ロータリー応募試験以来の大きなテストで、大変な人数(おそらく100人以上)の外国人志願者が集まりました。内容は読解、聴解70分×2(筆記試験)、そして文章作成(50分)の3部構成になっており、共通テーマは「伝染病」で、SARS、AIDS、

などの世界的な伝染病についての文章は、やや難しく感じました。結果は、今日これから大学に直接聞きに行くことになっています。合格すれば明日口答試験、不合格であれば、次回の試験に向けて11月から語学コースに通うことが決まります。結果を待つ一週間、なかなか落ち着かず、いろいろな夢を見ました。その間励ましてくださったのが、ロータリアンとその後家族でした。試験の難しさに頭を抱えていると、わからないところを丁寧に教えてくださり、6日には誕生日会を開いてくださいました。(26歳になりました)

10月に入り、一気に寒くなりました。10度を下回ることは珍しくなく、昨日はあられが降ったほどです。毎日暖房をつけて生活しています。



顧問ロータリアンのマーティン・コーダ氏宅



例会の様様

越谷北ロータリークラブ 小林操会長提言「原点に帰り、ロータリアンらしくあれ！」

ホームページアドレス <http://www.koshigaya-n.rc.jp>